

恵みと真理のニュース



2019 年 11 月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



[証]

天の父なる神様がこの放蕩だった私を抱いて下さり、舌癌を治療してくださいました。

わたしはソウルで5人兄弟の中で長女で生まれ育ちました。建築仕事をする父がお酒が大好きで酒酔いが酷かったです。お酒を飲むと家にある家具を壊したから、父が酒に酔って家に帰って来た日には家族のみなが外に逃げなければならなかった。小学校5年生の時、仏陀の誕生日に連れてられお寺に行った事があります。建築技術が良かった父がその頃、お寺を作ったので招待され行きましたが、子供の時でもお寺が怖くて嫌でした。奇異な姿の絵が怖くて、もてなしを受けた寺のご飯も一口も食べられませんでした。その時から心が苦しくて、うつになると教会に通わなくても空を見上げる習慣が身に付きました。

夏には父の事が多くて豊かに過ごしましたが、冬には仕事がなく貧しくなりました。お酒を飲む父、貯蓄できない母、どんな希望もなさそうに見える家庭が恥ずかしくて嫌でした。中学生時にはホンゼ同の市場で日なし賃をする母の代わりに夜には私が日なし金を受け取るため働きました。私には夢がありました。スチウケウデスになって思い切り空を飛ばした。しかし、長女だった私が早くお金を稼いで苦勞している母と4人の弟の面倒をみないといけないと思って、その夢を辞めました。70年代の初めの当時は日本経済が繁栄していて日本製品が世界的に人気を集めていたので日本語を習ってガイドになろうと決心しました。ソンドに塾がいっぱいあったので通う塾を調べているうちに、カンウォンで仕事をしていた父が久しぶりに家に帰って来て、塾の建物主から受け取る金があるので、共に通う塾費を払おうと私を連れて行かれました。行ってみたら嘘でした。男の人に出会うお見合いでした。私を結婚させようとした父が嘘をついたので私がいくら断っても仕方なかったです。二か月ぶりに結婚しました。1973年、私の年が20歳の時でした。3年後、親から離れて住んでプジョンに暮らしながら旦那は建築関連の仕事をしました。当時、電車が京仁線が開通してショサ邑からプジョン市で昇格され建築する仕事が多かったです。

しかし、夫が酒と賭博を楽しんでから生活費をくれなくなりました。長女だったので親と姉妹たちに豊かに生活している姿を見せようと思って大変でも我慢しました。しかし、旦那はもっと外に出て生活費を頼むわたしに暴力まで振りまれました。私が睡眠剤をいっぱい飲んで病院に緊急に運ばれてかろうじて起きる事までありました。退院して家に帰って来て子供達を見て来ずまなくて気の毒でした。外に出て空を見ながら

助けてください。”と悲しく泣きました。決心して自ら教会を訪ねて行きました。1980年1月1日でした。小さい教会だったので牧師と牧師の奥さんについて伝道と聖徒の家に訪問に行ったり、区域長と聖歌隊員として奉仕しました。主の事をする間は悩みがなくなり心が平安になりました。

副業で学習紙を配る仕事をして生計を維持していたが、子供たちが中学校に入ってからはずっと抱えられませんが多かったです。“かみさま！もうこれ以上忍耐はできません。このように旦那が変わらないならもう離婚する決断をおろすようでした。”と祈りながら神様に赦しを求めました。お金を稼いで子供たちに党費たる母になりたかったです。夫の放蕩な生活で結局離れました。そうしながら、愚かで教会を離れました。熱心に働いて金を設けて生活が安定されるなら、自分の意志で再び教会に行き信仰生活を続けたいと思いました。

放蕩産業企業に入りました。仕事は大変でしたが、給料とボーナスが多くて生活が良くなりました。学費の資金の資源まで受けることが出来て子供たちの学費を心配しなくなりました。そうしながら会社がチャンウォンに移され退職をしてプジョンの中間でエステショップを開店しました。同じ仕事をしてイエス様を信じない院長達と話しながらお金を稼ぐため心が急いでいました。さらに占いに占いに仕事をするようになった。初めは仕事が盛んになって周りの人にも大胆に声を出したりして生きていました。しかし、家に帰って来たらとても寂しくうつになりしました。仕事が盛んになるといふところ投資を多くしました。しかし、すぐ、IMFの経済危機が襲って事業場も収入が支出を担えられなくなりました。子供達も結婚させないといけないのにカードの借金は増えつつ前が見えなく暗かったです。道で偶然に以前一緒に教会生活をした伝道師を20年ぶりに出会うことができました。主日の朝ことに電話して教会に来ると神様に帰って来ると切に話して祈っていただきました。しかし、相変わらず高慢で従いませんでした。日増して負債が増えてどのように事業を整理したらいいかの悩みました。オランダで留学していた娘が付き合っている台湾の人と結婚すると言いました。中国では男が全部結婚準備をするから、私にはどんな心配もなくていいですと伝えました。娘の結婚式を行ってから翌年息子も結婚しました。その課程で神様の懐を離れて放蕩の者に生きている私を父なる神様は今も私を愛して待ってられるのを悟りました。エステショップを整理してシフン市で引っ越しして信仰生活をしました。

2012年10月に舌の真ん中に炎症が出来て耳鼻咽喉科と歯科に通い治療を受けましたが、治らなかつた。炎症の所がもっと痛くなりました。ソウル大学病院で癌であると宣告を受けました。“早く手術をしないと命が危ないです。手術を受ける事だけでも幸いです。すぐ入院して様々な検査を受けましょう。”と言われ

ました。舌癌末期に癌細胞が喉のリンパ腺三つの所でも転移された状態でした。国立癌センターで手術を受けるようにしました。悲しくて泣いて神様に申し訳なく泣きました。刃物で身をえぐるように胸が痛かったです。“神様！私の人生はここまでですね。今まで寂しくて人生が苦しかったです。子供達ももう結婚させたから私はこの世には未練がないです。しかし、神様の審判の前に立つときその時がとてつもない恐怖です。ありがたいことに近く恵みと真理教会がありました。手術を受ける10日前から恵みと真理教会のシフン聖殿に行き心を尽くして神様に祈りました。教室に行き私の事情を話して祈りを頼みました。伝道師と牧師が親切に歓迎して下さり、病気が治るために祈ってくださいました。そして、すぐ教会長の牧師が来られ祝福盛會を導いてくださるので必ず礼拝に参席するように頼みました。礼拝に参席して当会長の説教の御言葉を聞いて牧師の按手祈りを受けました。するとその日から、不安がなくなり、心が平安になりました。手術がよくできると確信が出来ました。ちょうど苦難週間でした。毎日のように教会に行き礼拝を捧げてイエス様の十字架を見ながら泣いて悔い改めてまた泣きました。そして2013年3月27日の朝8時に初めの手術に入りました。首をY字のように開いて舌の半分を切って、首のリンパ腺53個を切って手首から肉を取って舌に移植して、ふたももの肉を取って手首に移植する大手術15時間にかけて受けました。

手術を受ける中で私は生きておられる神様に会って主の声を聴く奇異な体験をしました。起きたときに舌は晴れて口の中いっぱいであつたし、左手首もふたももは包帯に積まれていて、腕と足は集中治療室で私は心で唇で神様に感謝と賛美を捧げました。三日後に一般病室に移しました。喜んで感謝しながら治療をくけたら早く回復されました。

33回の放射線の治療を受けた後、療養病院で療養する中、放射線の治療の後遺症で熱が38度以上に上がって再び癌センターに入院しました。抗生剤の治療をして治つたら単純に炎症であり、治らないと癌が再発した可能性が高いとしました。しかし、私は心配しませんでした。放蕩息子を外面しなくて暖かい居所に抱いてくださった神様の愛とあわれみを考えて祈りました。神様は答えてくださいました。一週間ぶりに熱が下がって炎症が治療されました。完治されました。放射線の治療の結果で左の下の歯茎は溶けてしまつたですが、生活が少し不便だけです。

この罪人を許して下さい、悟って下さって、治療して下さった神様父の愛と恵みを私が返すことが出来るでしょうか。サマリアの女性のように世で渴きを解決しようとした愚かなものを救って下さり、主が下さる神聖な御言葉を食べて聖霊の命を飲んで生きる、幸いなものになるようにしてくださいました。神様にいつも感謝しながら死んでも生きて神様の栄光のため生きる者になります。神様に栄光を捧げます。



[信仰コラム]

実相と本質 (2)

“...また、ユダヤ人と自称してはいるが、その実ユダヤ人でなくてサタンの会堂に属する者たちにそしられていることも、わたしは知っている”

スミルナ教会に向いて主が“わたしは、あなたの苦難や、貧しさを知っている(しかし実際は、あなたは富んでいるのだ)”と言われました。スミルナ教人達は経済的には貧しいが霊的には富んでいる人々でした。続いて“また、ユダヤ人と自称してはいるが、その実ユダヤ人でなくてサタンの会堂に属する者たち”と言われました。福音の真理を歪曲して純粋性を混雑にする会堂があります。教会を攻撃して脅威する行為を恣にする組織と団体があります。これはサタンが引き入れる集まりであり、サタンが司る集団です。サタンとその手下人になった人々の実相と本質について調べてみましょう。

聖書は全ての人を攻撃する強力な存在に対して知らせています。エペソ人への手紙 6章 12節に“わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。”と啓示されました。サタンとその使者達の存在に対して聖書を信じない人々は徹底に無知な状態にあります。サタンは人々が目に見えることだけに執着して見えない霊的の背後世界に対しては何の対策を立てることができないように自分の正体を隠したり偽装するからです。しかし聖書

はサタンの本質と正体を明らかにしています。試す者、悪い者、訴える者、対敵、偽りの父、この世の神、殺人した者、この世の君、空中の権を持つ君、悪霊どもの頭としました。サタンの起源に関して啓示された御言葉がイザヤ 14章にあります。(イザヤ 14:12~15)。サタンと“その使たち”と呼ばれる悪い霊達は霊的な闇に処されたこの世を司っています。しかしキリストが再臨なさるとサタンは1千年の間地獄に監禁されるでしょう。その後にはしばらくの間放れて万国を迷わし神様に対敵するが失敗します。サタンと彼の使者達のために備えられた火と硫黄で燃える池に投げ込まれて永遠に苦痛を受けます。

サタンを対敵するための武装に関して聖書に次のように記録されました。“最後に言う。主において、その偉大な力によって、強くなりなさい。悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の 武器で身を固めなさい。わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。”としました。人間の知恵と力ではサタンの策略に勝つことができません。主の中での力の能力で強くなればなりません。その具体的な対策は神様の武器を身に固めることです。悪いサタンがいかにほえたけるしのように暴れて諸々の策略で攻撃しても神様の武器で身を固めると十分に勝つことができます。イエスキリストを信じる人、主の中にいる人は誰でも神様の武器で身を固めることができます。防御と攻撃のための武器が六つです。真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の履物

、信仰の盾、救いのかぶと、御霊の剣であります。神様の武器の中でどれ一つも疎かにしてはなりません。サタンの活動目的は自分が神様のように礼拝を受けようとするのです。このために全ての方法を動員して人々を騙しています。サタンは諸々の策略で人々が誠な神様を知らないようにします。人々が空しい思想と宗教を作るようにして、これに従うよう迷わします。人々がイエスキリストによる救いの福音を聞かなくて信じないようにするため妨げて、異端で福音を混雑にします。サタンは教会を毀破してキリスト人を除去することをします。共産主義と人民民主主義は教会とキリスト人を滅絶させるためのサタンの作品です。北朝鮮の地に教会が全くないことと信仰の自由がないのがこれを証明します。サタンは福音が歪曲されて伝えられるのを願います。イエス様以外にもキリストがいるという言葉をする者達を好みます。共産主義体制が拡散されることを願います。同性愛が合法化されるのを願います。欺瞞で人を苦境に落せて人中心の以人为本主義が拡散されるのを願います。聖徒はサタンが好むこのような現状が生じるのを見と聖なる怒りと嘆息ができるのが当たり前です。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

問題に対処する秘訣



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

人は誰でも生涯のさまざまな問題を処理しながら生きていきます。問題は、成長と発展の土台となります。処理すべき問題がない状態とは、決して望ましくありません。しかし、誤った判断と行動によって打撃や損傷を招く問題を作ることはいずれもありません。単純な問題が怠惰や誤った対応によって、深刻な問題となる場合があります。当面の問題に対して否定的対応姿勢をとるので、悪い結果をもたらす場合もあります。問題に対する態度や認識によって問題の性格が変わることがあります。したがって、問題をどのように扱って処理するのかを、私たちが学ばなければなりません。今日は、聖書から問題に関する教訓的なメッセージを見てみましょう。

第一に、自分の慎重していない判断と行動が悪い問題を作る場合を見てみましょう。

1. アブラハムとサラの例を見てみましょう。

神がアブラハムを選民の祖先に選び定め召しられた、カナンに行くように命じられました。アブラハムは、神の命令の通りに行きました。アブラハムが神の召しを受けて、10年が過ぎて85歳になりサラの年齢は75歳になりました。ところが、まだ子がありませんでした。サラは自分は子を産むことができないと判断してしもべハガルを通じてアブラハムが子孫を得ることとしました。しもべハガルは妊娠になると急変してサラを無視する行動をしました。ハガルがイシュマエルを生んだか13年後にサラもみごもってイサクを産みました。するとハガルの指図を受けたイシュマエルが若いイサクを嫌がらせしました。これを見たサラは、ハガルとイシュマエルを追い出すとアブラハムに求めてハガルとイシュマエルは、最終的に追い出しました。アブラハム、サラ、ハガルすべてが間違った考えや行動に問題を作りました。ハガルの高慢な心がサラに虐待を受ける問題を作りました。アブラハムとサラは、神の全能なさるのを考慮せず、途中で行動したわけで、サラはしもべに無視される問題を作り、アブラハムは家庭不和とハガルとイシュマエルを追い出しする苦しみを耐えていました。

2. ヤコブの例を見てみましょう。

イサクの妻リベカは双子を妊娠しました。双子がお腹の中にあるときに、神は言われました。「二つの民族があなたのお腹の中にあるので、二つの民があなたの体から分割されるものであり、一つの民が他の民よりも強いでしょうし、大きな者が小さな者を仕えるのだ。」リベカはエサウとヤコブを妊娠したとき、神が自分に与えられた言葉をヤコブに聞かせ与えました。ヤコブは自分が長男にならなければならないという考えをするようになり、最終的に兄とおしるこに交渉して長子の権利を譲渡しました。

そして兄が狩りに行った間に母親と共謀して兄で假装して珍味を持って父に行きました。老年に視力が大変悪くなったイサクはだまされて長男にしなければなら祝福をヤコブにしました。このことによって、深刻な問題が発生しました。エサウが「父のために哀哭の日が近いなんてその後私は私の弟ヤコブを殺す」と言いました。この言葉を聞いたリベカはヤコブを呼んでしばらく家を離れるようにしました。そしてヤコブは遠い伯父ラバンの家に逃避しました。それから、ヤコブはおじのトリックで、20年の間にひどく苦勞しました。ヤコブの苦勞は神のみ旨に自分の将来を任せなかった理由で生じた問題でした。あなたは不必要な問題を作って苦勞することがないように判断と行動を慎重にしてください。

第二に、予想外の大きな問題に直面したとき、その問題の性格をどのように規定するかによって結果が変わった場合を見てみましょう。

1. モーセの例を見てみましょう。

モーセは、神の力を負って、イスラエルの子らをエジプトから導き出しました。神は雲の柱を送り、導きいただきイスラエルを紅海の前に到達しました。モーセは神の指示の通り海辺の浜に陣を張りました。神は言われました。「エジプトの王パロがイスラエルの民の情報を入手して、イスラエルの民が間違っただまよっていると誤った判断しました。そしてすぐイスラエルの民を捕らえるために軍隊を率いて追撃するのに、神が権能を現れる栄光を得ることができる。」この言葉の通りすぐ、イスラエルの民を捕らえるための追撃を執行しました。紅海で天幕を張って休憩していたイスラエル人はエジプトの軍隊が追いついてくるのを見ました。彼らは大きく恐れてモーセと神を恨みました。モーセは民に言った。「モーセは民に言った、**「あなたがたは恐れてはならない。かたく立って、主がきょう、あなたがたのためになされる救を見なさい。きょう、あなたがたはエジプトびとを見るが、もはや永久に、二度と彼らを見ないであろう」**」(出エジプト記 14:13、14)モーセは、神が予告された言葉を心に置いたので、このような大胆なお話をすることができました。「**主はモーセに言われた、「あなたは、なぜわたしにむかって叫ぶのか。イスラエルの人々に語って彼らを進み行かせなさい。あなたはつえを上げ、手を海の上にさし伸べてそれを分け、イスラエルの人々に海の中のかわいた地を行かせなさい。」**」(出エジプト記 14:15、16)しました。モーセが神の指示の通りすると神が大きな東風を送って水を分かれることになりました。割れた水が左右に壁のように立っていた海の中で生じた道が乾いた地面になりました。200万人以上になるイスラエルの子らが、そこを渡っていきました。エジプト軍も海の中に生じた道に入りました。ところが、彼らはその道に入って正しく歩くのも苦勞であって戦車の車輪が剥離された。イスラエルの子孫たちが皆渡ろうと神がモーセに指示されるのを「あなたの手を海の上に上げさし出して水がエジプト人とその戦車と騎兵たちの上に戻って流れるようにしなさい。」としました。モーセがすぐ手を海の上にさし出して海が元に回復しました。エジプト軍は海水の中で絶滅してしまいました。モーセは当面の大きな問題について、神の契約された言葉を信じることによって、その問題の性格を変えました。危機の問題が勝利を与える問題で性格が変わりました。

2. ヨシヤの例を見てみましょう。

エジプトから出たイスラエルの民がカナンの南境界線であるカデシュ・バルネア地域に至りました。神はモーセに言われた、各部族の首長を選抜して、カナンの地を探るようにしました。彼らは40日にかけて、カナンの地を詳しく観察した後、これに関して民の前で報告しました。12人のうち10人の斥候が明らかにした見解と判断はこうなります。「しかし、彼とともにのぼって行った人々は言った、**「わたしたちはその民のところへ攻めのぼることはできません。彼らはわたしたちよりも強いからです。」**そして彼らはその探った地のことを、イスラエルの人々に悪く言いふらして言った、**「わたしたちが行き巡って探った地は、そこに住む者を滅ぼす地です。またその所でわたしたちが見た民はみな背の高い人々です。わたしたちはまたそこで、ネピリムから出たアナクの子孫ネピリムを見ました。わたしたちには自分が、いなごのように思われ、また彼らにも、そう見えたとはいえません」**」(民数記 13:31~33)

しかし、残りの2人斥候ヨシヤとカレブの見解と判断はこうしました。「そのとき、カレブはモーセの前で、民をしずめて言った、**「わたしたちはすぐにのぼって、攻め取りましょう。わたしたちは必ず勝つことができます」**」(民数記 13:30)、「イスラエルの人々の全会衆に言った、**「わたしたちが行き巡って探った地は非常に良い地です。もし、主が良しとされるならば、わたしたちをその地に導いて行って、それをわたしたちにくださるでしょう。それは乳と蜜の流れている地です。ただ、主にそむいてはなりません。またその地の民を恐れてはなりません。彼らはわたしたちの食べ物にすぎません。彼らを守る者は取り除かれます。主がわたしたちと共におられますから、彼らを恐れてはなりません」**」(民数記 14:7~9)

10人の斥候とヨシヤとカレブの見解と判断を比較してみると、科学的分析に見る見方と判断は同じでした。しかし、信仰的分析に見る見方と判断は、互いに異なっていました。10人の斥候は「私たちは上って行って、その民を打たない。その土地は住民を飲み込む土地である。」しました。ヨシヤとカレブは、「上って行って、その地を占めてみましょう。私たちは十分に勝つのである」しました。神は10人の斥候を殺しておられ、その報告をそのままに信じて従った民を荒野に返し送り、その日から38年の間に、荒野で生を終えました。しかし、ヨシヤとカレブは、当時20歳以下だった子孫を連れてカナンの地を占領するようになりました。ヨシヤとカレブは、問題を神の約束を介して分析し、問題の性格をご飯と規定したからです。

聖徒の皆さん、日常的な問題は、楽しい気持ちで熱心に処理してください。神のみ旨を無視して自分の思い通りに判断し、行動することで苦手問題を作らないように慎重に判断して行動してください。予想外の大きな問題に直面しているとき、神の言約による信仰で、その問題の性格を肯定的に規定してください。あなたはすべての問題を聖書的に認識し、管理して処理するので、当面の問題を介して有益な結果を得ることとなりますようにお願いします。